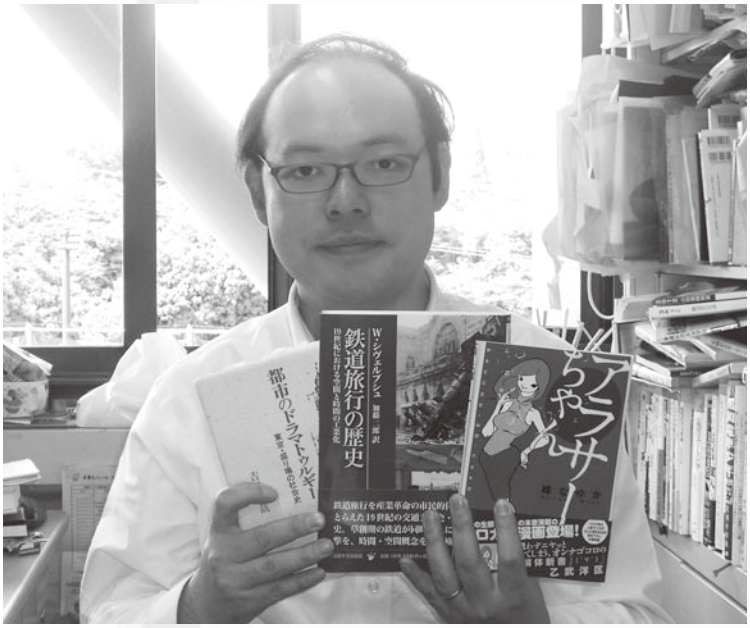
夏休み 大学生に読んでほしい3冊

～強烈な体験をしてください～



中央大学文学部
辻准教授

もうすぐ夏季休暇に入る。
日ごろ読めなかった本を夏休みに読破したい、
今夏こそ実のある読書をする。
そう誓う学生もいるはずだ。
そこで中央大学文学部社会情報専攻の
辻泉（つじ・いずみ）准教授に
「お薦めの3冊」を紹介していただいた。

（学生記者　宮寺理子＝法学部3年）

辻先生は、身近なものに例えて分かりやすく論じると評判の先生だ。
講義は学生に大人気で、2010年度からはFLPジャーナリズムプログラムも担当している。

●鉄道が標準時をつくった ～今の大学生に読んでほしい1冊～

『鉄道旅行の歴史』W・シヴェルブシュ著　法政大学出版局

鉄道ヲタクの先生ならではの一冊!とはいっても「鉄道ヲタク向けの鉄道旅行の歴史が詳しく書かれた本ではありません」（辻先生）

鉄道が登場したことで、人々の「時空間感覚」が変容したと指摘している。

19世紀の英国では、街ごとに時間が違ったが、鉄道によって標準時が必要になるとともに、共有する空間として国土という概念が生まれた。

しかし、「ネット社会はその概念を解きほぐす変化をもたらしている」という。

例えば「待ち合わせ」がそうだ。携帯電話がない時代では、前もって具体的な場所と時刻を決めていた。携帯時代では多くの人が「お昼ぐらいに○○駅」といった曖昧な決め方でも、当日その場で連絡を取り合い、会うことが出来る。

「もちろん、どちらにも良い面、悪い面があると思います。しかし、生まれた時から曖昧（ルーズ）な時空間が当たり前になっている時代に生きているからこそ、いかに時間と空間が整えられてきたかを知り、これからの時空間のあり方を考えていったらいいのではないかと思います」

時間も空間も限られている。生かすも殺すも自分次第。この本を読んでどのように時間と空間が作られてきたかを知り、これからの大学生活について考えてみるのはいかがだろうか。

●社会学者を目指すきっかけ ～大学時代に読んだ思い出深い本～

『都市のドラマトゥルギー』吉見俊哉著 河出文庫

略して「都市ドラ」。浅草→銀座→新宿→渋谷と移り変わってきた東京の盛り場と日本社会の変動を合わせて論じている。

「渋谷について書かれています。実家が渋谷の近く。身近な文化や空間のことを社会全体と結びつけて、こんなに面白く書かれていることに共感を覚えました。『社会学って凄い!』って。この本を読んで、社会学者を目指すことを決意しました」と辻先生。

大の“鉄道ヲタク”で、社会学には興味がなかったという。本との出会いは食中毒で入院し、暇を持て余していた大学2年の時。

記者がもしこの本と出会っていなかったらと尋ねると、

「鉄道が好きなので駅員になっていたかもしれません」

と、笑った。

今の仕事にしても、駅員になったとしても、好きなことを貫く姿は尊敬に値する。

●空気を読める人ほど住みにくい世の中 ～自由にお薦めの1冊～

『アラサーちゃん』峰なゆか著 メディアファクトリー

表紙（写真）が可愛い「アラサーちゃん」。今までの2冊とは一線を画している。

エッセイ風4コマ漫画で構成され、タイトル通り、アラサー（30歳前後）女性の日常が面白おかしく描かれている。

アラサーではなくとも、女性なら「あるよね～」と共感できる要素が多い。

例えば「好きな食べ物は?」と聞かれた主人公のアラサーちゃん。素直に自分の好きなものを言えばいいのに、「ホットケーキだと、フツーに女の子っぽくなっちゃうし、ヨーグルトだと…」

相手の受け取り方を考慮するあまり、考え込んでなかなか答えられない。日常のちょっと共感できる1コマを描いた本を辻先生はこう解釈する。

「今は空気を読める人ほど、生きづらい世の中。日々の膨大なコミュニケーションの渦の中で、自らの立ち位置を探し続けなければならない辛さが上手く描かれていると思います」

確かに、特に女性は相手を意識するが故に相手や場にあったキャラに演じ分ける部分があるように思う。しかしそれでは疲れてしまうのでは…。

辻先生はこの本にそれに対する処方箋があると指摘する。

「これからの時代はコミュニケーション・サバイバルを生きていかなければならない。生き残るには…。キャラを演じようとする、それ自体、さらけだすことだと思います」

アラサーちゃんが相手を意識して自分のキャラを定めるのに慌てふためくように、その焦りふためく姿そのままをさらけ出したほうが相手は、「あ、この子なんか面白い」「カワイイ」と受け止めてくれるのではないだろうか。

偽りの自分をクールに着飾るより、そのままの慌てふためく姿を素直に出すほうが、よほど楽になるのかもしれない。

『アラサーちゃん』は、今を生きる女性の参考書になるかもしれない。男性もこれを読んで女心を学んでみたらいかがだろうか。

もしかすると夏休みの間に可愛い彼女ができるかも?

ダメ押し!

最後に辻先生から、夏休みを迎える大学生のみなさんに一言。

「強烈な体験をしてください。私が食中毒で死にそうになったように（笑）」